

### 背景

文接続（等位の文接続と副詞節）は、類型論研究において、特に盛んに研究されてきたテーマである。しかし先行研究では等位接続と従属接続をどう区別するかに終始している。そこで本研究は、文接続を意味の観点から通言語的に考察することで、文接続に用いられる手段の種類を特定し、これらに関する一般性を明らかにすることを目的とする。

### 先行研究① 形式的区別

等位接続と副詞節に関して、最もよく知られた区別は従属性や埋め込みなどの形式的なものである (Green 1976; Van Valin & LaPolla 1997: ch.8 など)。しかし、これらは通言語的には妥当ではない (Cristofaro [2003: ch.2] や Haspelmath [2004: ch11; 2007: ch7] を参照)。

### 先行研究② 語用論的区別

等位接続は complex figure を形成するのに対し、副詞節は figure-ground を形成する (Croft 2001: ch.9; 2022: ch.15.1):  
(1) He dreamed while he slept. (2) The sun was shining and the birds were singing. (3) He slept and he dreamed.  
(1) で夢を見るという行為は寝るという行為に依存的、(2)は両節が対等。→ しかし、これを通言語的な比較の基準にできない。

理由① 文脈依存的で抽象的な情報を必要とする。理由② これらの区別は形態統語的な区別に対応しない。

→ (1) は (3) のように言い換えられる。また以下のように文脈次第で所謂、等位接続とも副詞節とも解釈され得る言語もある。

(4) Malakmalak (Birk 1976: 122)  
[yinʔa        tat                ayanö]        [alawar        tatʔma                yitaŋayi]  
man        see        I                woman        hit.CONT                3SG.M.SBJ.2.PRS/PST.3SG.F.OBJ  
'When I saw the man he was hitting his wife.' or 'I saw man and he was hitting his wife.'

### 研究設問

先行研究で行われてきた文接続の種類別の区別は通言語的には妥当ではない。それならそもそも区別する必要があるのか？区別することなく、文接続が表す意味関係を比較の基準とすることで形態統語的な表出（手段）に関する一般性は確認できないか？

### 典型的な意味関係

文接続で表される典型的な意味関係として本研究では、以下の10個を考察対象とする: 順接, 対比, 逆接, 選言, 時間的重複, 時間的先行, 時間的後行, 理由, 条件, 目的。これら以外の意味関係も当然、存在するが、これらは類型論研究で伝統的に扱われてきたものである (Mauri [2008]; Cristofaro [2003] 参照)。順接に関してここでは Mauri (2008: ch.3.1) や Dik (1968: 271) に従って、2つの節を繋ぐが、デフォルトの意味を示さないものとして定義している。

### 典型的な手段

文接続に用いられる典型的な手段として、以下の3つが挙げられる。  
(i) 無標示接続 (e.g., Ulwa [Barlow 2023:358])  
[Nī   mbī-wap]   [ma=kot-p.]  
[1SG here-be.PST] [3SG.OBJ=break-PFV]  
'I stayed here and (I) bore her.'  
(ii) 連結詞接続 (e.g., [1]~[3])  
(iii) 非等価接続 (e.g., Chukchi [Dunn 1999: 244])  
ləyen ʔire-plətku-**nenju** ɣ-ekwet-lin   jara-ytə  
really race-finish-DRK   PRF-leave-3SG   home-all  
'Since [he] finished racing he set off homewards.'

(ii) と (iii) を組み合わせた (iv) 複合接続もある。

### 一般化とその説明

- 本研究では、文接続に関して、以下の3つの一般性を確認した。一般性2, 3は一般性1の代表的なものと考えられる。
- 一般性1: 世界の諸言語において、順接は他の意味関係に比べ単純な（もしくは同等の）手段を用いるという強い傾向がある。
  - 一般性2: 世界の諸言語において、順接以外の意味関係で無標示接続を用いる言語はこれを順接でも用いることができるという強い傾向を示す (Gooniyadi語, Rapanui語, Paumari語など)。
  - 一般性3: 世界の諸言語において、順接で複合接続を用いる言語は、他のいずれかの意味関係でもこれを用いるという強い傾向を示す (トルコ語, Bunan語, Yaqui語など)。

このような一般性は、順接が表す意味関係の広さが潜在的な使用頻度の高さに繋がることで、使用頻度の高さが単純な形式へ繋がるという form-frequency correspondence explanation (Haspelmath 2021) によって説明できると考えられる。

### 結論と今後の研究課題

本研究では、文接続に関して4種類の通言語的な手段を特定し、それに関する3つの一般性を報告した。これらは順接が持つ潜在的な使用頻度の高さによって説明され得ると考えられるが、具体的なデータによる検証が今後の研究課題として残されている。

参考文献: Barlow, Russell. 2023. *A grammar of Ulwa (Papua New Guinea)*. Berlin: Language Science Press./Birk, David. 1976. *The Malakmalak Language, Daly River (Western Arnhem Land)*. Vol. 45. Canberra: Research School of Pacific and Asian Studies, Australian National University./Cristofaro, Sonia. 2003. *Subordination (Oxford Studies in Typology and Linguistic Theory)*. Oxford, New York: Oxford University Press./Croft, William. 2001. *Radical construction grammar: Syntactic theory in typological perspective*. Oxford: Oxford University Press./Croft, William. 2022. *Morphosyntax: Constructions of the World's Languages*. Cambridge: Cambridge University Press. https://doi.org/10.1017/9781316145289./Dik, S. C. 1968. *Coordination: its implications for the theory of general linguistics*. Amsterdam: North-Holland./Dunn, Michael J. 1999. *A Grammar of Chukchi*. Canberra: Australian National University PhD dissertation./Green, Georgia M. 1976. Main Clause Phenomena in Subordinate Clauses. *Language* 52(2). 382–397. https://doi.org/10.2307/412566./Haspelmath, Martin. 2004. Coordinating constructions: An overview. In Martin Haspelmath (ed.), *Coordinating Constructions*, 3–39. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins./Haspelmath, Martin. 2007. Coordination. In Timothy Shopen (ed.), *Language typology and syntactic description*, vol. 2, 1–51. Cambridge: Cambridge University Press./Haspelmath, Martin. 2021. Explaining grammatical coding asymmetries: Form–frequency correspondences and predictability. *Journal of Linguistics* 57(3). 605–633. https://doi.org/10.1017/S0022226720000535./Mauri, Caterina. 2008. *Coordination Relations in the Languages of Europe and Beyond*. Berlin: De Gruyter Mouton. https://doi.org/10.1515/9783110211498./Van Valin, Robert D. & Randy J. LaPolla. 1997. *Syntax: Structure, Meaning, and Function*. Cambridge: Cambridge University Press.